資料５

第３次 京田辺市生涯学習
推進基本計画（中間見直し）
【案】

京　田　辺　市

目次

第１章　計画策定にあたって……1

１．計画の趣旨 …… 1
２．生涯を通じた学習に関わる動向…… 2
３．計画の範囲 …… 3
４．計画の位置付け …… 3
５．計画の期間 …… 3

第２章　本市の現状と課題……4

１．人口の推移 …… 4
２．各種調査結果 …… 5
３．第３次計画前期５年間の取組状況と課題…… 14
４．生涯学習社会の実現に向けて重視する視点…… 17

第３章　計画の基本的な考え方……19

１．基本理念 …… 19
２．基本目標 …… 20
３．計画の目標値 …… 22
４．施策体系 …… 23

第１章　計画策定にあたって

１．計画の趣旨

京田辺市（以下「本市」という）においては、令和４年（2022 年）に「第３次京田辺市生涯学習推進基本計画」を策定し、「誰もが学び続けられるまち」「学びを通してつながりあえるまち」「学びの成果を活用できるまち」を基本目標として、生涯学習社会の実現に向けた各施策を推進してきました。

同計画は計画期間（令和４年度～令和 13 年度）の中間年度にあたる令和８年度において見直しを行うとしており、本見直しでは、生涯学習を取り巻く国内外の社会情勢の変化を踏まえつつ、本市における生涯学習の現状と課題を的確に分析したうえで、さらなる生涯学習社会の発展に向けた方向性を示します。

２．生涯を通じた学習に関わる動向

（１）国際的な動向

平成 27 年（2015 年）の国連サミットで採択された SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）の達成に向け、全ての人に質の高い教育機会を提供できるよう取り組むとともに、持続可能なまちづくりに向けた教育(ESD)を推進していく必要があります。

また、2030 年の SDGs 目標達成に向け、成人や社会的弱者を含む包摂的な生涯学習機会のさらなる拡充が求められています。さらに、AI を含む技術の急速な発展により社会が変容するなか、教育・生涯学習のあり方も大きく問い直されています。一方で、教育現場では AI 等の最新技術の普及により、学習機会の拡充が期待される一方、プライバシーの確保や安全性の強化等への対応が求められています。ICT 分野では、情報・データリテラシー等の活用能力の向上が課題となっています。

（２）国の動向

第４期教育振興基本計画（令和５年）では、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を基本方針として掲げ、生涯学習・社会教育を通じた地域コミュニティの形成を重視しています。

第７期科学技術・イノベーション基本計画（令和８年）においては、Society5.0 の推進に向けたデジタル・AI 活用やリカレント教育の一層の推進が求められています。公民館・図書館等については、学校・地域・行政と連携した「地域の学びと実践のプラットフォーム」としての機能強化や公的施設との複合化が推進されており、生涯学習拠点の機能高度化が全国的な方向性となっています。

（３）京都府の動向

京都府教育委員会が定めた計画「社会教育を推進するために（令和８年)」では、学びの成果を地域活動へ還元する循環の形成が重要な方向性として示されています。

府が策定した「第２期京都府教育振興プラン（令和３年)」においては、生涯学習を幼児期から生涯にわたる切れ目のない学びと位置付け、社会教育施設の活用や多様な主体による学習機会の充実を推進しています。

（４）京田辺市の動向

本市においては、中部地域における文化ホール・図書館・公民館を一体化した複合型公共施設の整備検討が進んでいます。また、南部地域では南部まちづくりセンター「ミライロ」の推進により市民の交流促進拠点づくりが図られ、生涯学習の機会を拡充する動きがあります。一方、各エリアの公民館のあり方としては、地域住民の居場所づくりの促進や、生涯学習推進協力員の市民への認知度向上などを進めることが求められています。

３．計画の範囲

生涯学習社会とは、人々が生涯を通して自由に学習の機会を選択して学び、その成果を社会の中で活用する社会を言います。

本市においても、生涯学習により一人ひとりの生活が豊かなものとなり、地域のつながりや学習成果の活用により、地域課題の解決につながる生涯学習社会の実現が必要です。

本計画では、社会教育や文化教育等における学習や、学習により形成されるつながりや、その成果を地域に還元することで、学びと活動の循環を生み出す生涯学習社会の実現を目指します。

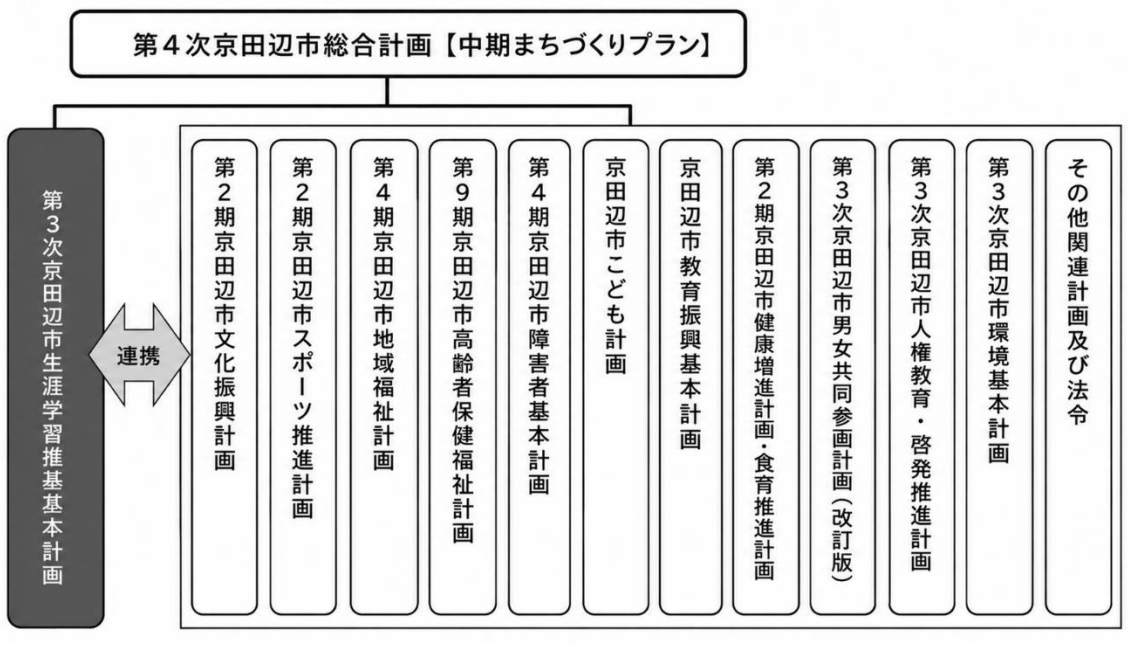
また、本計画で市が取り組む範囲については、市の実施する教育活動やその支援策を主とし、個人の学習活動や民間の学習事業、企業内訓練等はそれぞれの主体による自主的な取り組みに期待するものです。

４．計画の位置付け

本計画は、生涯を通じた学習についての基本的な考え方や施策を示すものです。

なお、他計画との関連性については、「第４次京田辺市総合計画」を最上位計画とし、教育やスポーツ、福祉、環境、健康等をはじめとした各分野の個別計画との連携を図ります。

■計画の位置付けイメージ



５．計画の期間

本計画は令和４年度（2022 年度）～令和 13 年度（2031 年度）までの 10 年間を計画期間とします。今回の中間見直しにより、令和９年度以降の後期５年間の方向性を更新します。

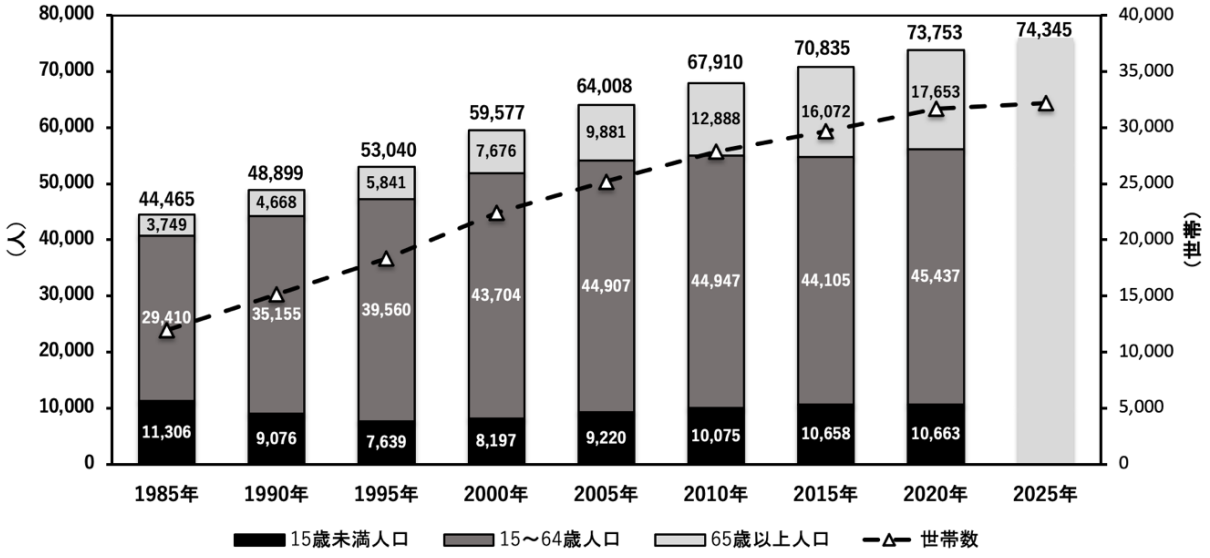
第２章　本市の現状と課題

１．人口の推移

人口と世帯数は、昭和 60 年（1985 年）以降、長期的には増加傾向にあり、令和７年（2025 年）の国勢調査「速報値」では 74,345 人となっています。一方、年齢３区分別にみると、15 歳未満人口は平成７年（1995 年）頃まで減少した後、増加に転じ、近年はおおむね横ばいで推移している一方、65 歳以上人口は一貫して増加しており、高齢化が進行しています。また、世帯数も増加が続いていますが、近年は人口の伸びが緩やかになる一方で世帯数は増加しており、世帯の小規模化が進んでいることがうかがえます。

※国勢調査における「人口等基本集計」は９月 29 日に公開されるため、確認でき次第、年齢３区分別の人口についても更新します。

■人口・世帯数の推移



資料：国勢調査

２．各種調査結果

（１）生涯学習に関するアンケート（個人用）調査

１）調査概要

調査対象	市内にお住まいの 16 歳以上の方
対象数	配布数：3,000 件　有効回答数：999 件　有効回収率：33.3%
調査方法	郵送による調査票の配布及び Web 調査、郵送および Web での回収
調査期間	令和８年（2026 年）７月２日(木)～７月 17 日(金)

２）調査結果

① これまでの生涯学習の状況について

【生涯学習活動の対象】

・これまでに行った生涯学習活動についてみると、全体では「職業上必要な知識・技能」が 53.2%と最も高く、次いで「健康・スポーツ」が 46.7%、「趣味的なもの」が 42.7%となっています。

・これから学習したいことについてみると、全体では「趣味的なもの」が 38.6%と最も高く、次いで「健康・スポーツ」が 36.9%となっています。

【学習場所】

・学習場所についてみると、全体では「自宅、個人宅等」が 56.3%と最も高く、次いで「市外の施設」が 31.7%となっています。

【学習形態】

・学習形態についてみると、全体では「民間の講座や教室」が 34.6%と最も高く、次いで「市等の公的な機関が主催する講座や教室」が 33.7%となっています。また、年齢別でみると、16～39 歳では「WEB での情報検索」、40～64 歳では「民間の講座や教室」、65 歳以上では「市等の公的な機関が主催する講座や教室」がそれぞれ高くなっています。

【情報収集先】

・学習をする際の情報収集先についてみると、全体では「友人・知人の評判・口コミ」が 34.1%と最も高く、次いで「『市や各施設のホームページ』、『市公式ＳＮＳ』以外のインターネット」が 29.6%、「市の『広報ほっと京田辺』」が 25.9%となっています。

・これから学習する際の情報収集先についてみると、全体では「市の『広報ほっと京田辺』」が 39.2%と最も高く、次いで「『市や各施設のホームページ』、『市公式ＳＮＳ』以外のインターネット」が 33.3%となっています。

② 家庭教育の状況について

【子育ての悩みや不安】

・子育ての悩みや不安に感じることについてみると、全体では「子どもの健康や発達について悩みや不安がある」が 30.5%と最も高く、次いで「子育てに十分な時間がとれない」が 22.0%となっています。

・家庭教育を充実させるために必要なことについてみると、全体では「行政が支援すること」が 45.5%と最も高く、次いで「企業等が家庭教育をしやすい環境づくりに協力すること」が 41.6%、「親がもっと家庭教育に取り組むこと」が 40.1%となっています。また、性別でみると、男性では「親がもっと家庭教育に取り組むこと」、女性では「行政が支援すること」が高くなっています。

③ 学びの「成果」の活かし方について

【学びの還元の意識】

・身に付けた知識や技能について、今後地域や他の人のために生かしたいと思うかについてみると、全体では『生かしたい』(「生かしたいと思う」と「どちらかといえば生かしたいと思う」を合わせたもの) が 54.0%と最も高くなっているものの、65 歳以上では他の年齢層に比べて低くなっています。

【学びの還元の実感】

・身に付けた知識や技能について、地域や他の人のために生かしてきたと思うかについてみると、全体では「どちらかといえば生かしてきた」が 29.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば生かしてきていない」が 20.6%となっています。

【還元するために必要なこと】

・身に付けた知識や技能を地域や他の人のために生かすには、どのようなことが必要だと思うかについてみると、全体では「地域活動・ボランティア活動の情報提供の充実」が 48.3%と最も高く、次いで「技能や経験を持つ人と活動の場を結ぶコーディネーターの充実」が 42.6%となっています。

④ 地域や社会での活動について

【参加したい活動】

・地域や社会で参加してみたい活動についてみると、全体では「スポーツ・文化活動」が 25.5%と最も高く、次いで「わからない」が 24.1%となっています。

【今後の活動や希望する機能】

・現在公共施設を利用して行っている活動や今後行いたい活動又は公共施設に追加して欲しい機能や生涯学習活動についてみると、全体では「市民参加型のイベントがある機能」が 36.9%と最も高く、次いで「工作・ものづくり・創作活動ができる機能」が 29.0%となっています。

【活動への参加を促す工夫】

・多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるために必要なことについてみると、全体では「地域や社会での活動に関する情報提供」が 29.0%と最も高く、次いで「地域や社会に関する講習会の開催等、活動への参加につながるようなきっかけづくり」が 28.4%となっています。

⑤ 京田辺市における生涯学習に関する取組について

【満足度・重要度】

・京田辺市内の生涯学習の取組について、現在の「満足度」と、生涯学習施策としてどの程度重視するかという「重要度」を１点～５点で評価していただいた結果、各取組における満足度の平均は 3.04、最大値は 3.12（「市民活動を行う団体の学びや活動の支援」）、最小値は 2.96（「学びや活動を地域づくりに活かす機会促進」）、重要度の平均は 3.58、最大値は 3.76（「学習・文化・スポーツの機会づくり」）、最小値は 3.38（「学びを活かす機会づくり」）となっています。

・重点化・見直し領域（「重要度」が平均以上、「満足度」が平均以下の領域）に位置付けられた「４．地域で活躍する人、活動を支える人づくり」と「９．学びや活動を地域づくりに活かす機会促進」については、重要度が高い一方で満足度が相対的に低く、優先的な取組の充実が求められます。

・年齢別でみると、16～39 歳では「１，学習・文化・スポーツの機会づくり」、40～64 歳では「２．学習施設や交流の場の充実」、65 歳以上では、「１，学習・文化・スポーツの機会づくり」が重点化・見直し領域に位置付けられています。

⑥ 生涯学習とウェルビーイングの関係性について

【ウェルビーイング】

・幸福度については、「８点」が 27.3%と最も高く、次いで「７点」が 19.0%となっています。

・健康状態については、「８点」が 17.3%と最も高く、次いで「７点」が 16.9%、「５点」が 16.0%となっています。

・社会的つながりについては、「５点」が 18.5%と最も高く、次いで「７点」が 16.0%、「８点」が 15.2%となっています。

（２）生涯学習に関するアンケート（団体用）調査

１）調査概要

調査対象	主に市内の公共施設を拠点に活動されている団体
対象数	配布数：100 件　有効回答数：56 件　有効回収率：56.0%
調査方法	郵送による調査票の配布及び Web 調査、郵送および Web での回収
調査期間	令和８年（2026 年）７月２日(木)～７月 17 日(金)

２）調査結果

① 学びと地域活動の現状

【活動目的】

・主な活動目的についてみると、「交流・仲間づくりのため」が 58.9%と最も高く、次いで「趣味を楽しむため」が 44.6%、「健康維持・増進のため」が 39.3%となっています。

【利用施設】

・活動の場として利用している施設等についてみると、「中央公民館、住民センター、中央図書館等」が 69.6%と最も高く、次いで「社会福祉センター等の福祉施設」が 19.6%、「中央体育館、運動公園等の市内の公共スポーツ施設」が 16.1%となっています。

【学習成果の活用】

・これまでの学習成果の活用の有無についてみると、「学習成果を活用している」が 64.3%、「学習成果を活用していない」が 30.4%となっています。

【活動における問題】

・活動を行う上での問題点についてみると、「会員の高齢化」が 41.1%と最も高く、次いで「新規会員が入会しない」が 33.9%、「公共施設の会場が確保しにくい」が 26.8%となっています。

【地域や他者との交流】

・これまでの地域の他団体や個人との交流の有無についてみると、「イベント（試合、発表会、展覧会）等のお知らせをするなどの交流がある」が 44.6%と最も高く、次いで「イベント等を一緒に行うなどの交流がある」が 30.4%、「特にない、わからない」が 28.6%となっています。

【行政に望むこと】

・活動を続ける上で行政に望むことについてみると、「会員募集の支援や、活動についてのＰＲをしてほしい」が 41.1%と最も高く、次いで「活動できる場所をもっと増やしてほしい」が 28.6%となっています。

② 京田辺市における生涯学習に関する取組について

【満足度・重要度】

・京田辺市内の生涯学習の取組について、現在の「満足度」と、生涯学習施策としてどの程度重視するかという「重要度」を１点～５点で評価していただいた結果、各取組における満足度の平均は 2.98、最大値は 3.20（「学習・文化・スポーツの機会づくり」）、最小値は 2.72（「地域で活躍する人、活動を支える人づくり」）、重要度の平均は 3.83、最大値は 4.06（「生涯学習に関する講座や活動の情報提供」）、最小値は 3.58（「大学・企業などとの連携」と「学びを活かす機会づくり」）となっています。

（3）生涯学習に関するアンケート（区・自治会用）調査

1）調査概要

調査対象	市内の区・自治会
対象数	配布数：47 件　有効回答数：36 件　有効回収率：76.6%
調査方法	郵送による調査票の配布及び Web 調査、郵送および Web での回収
調査期間	令和８年（2026 年）７月２日(木)～７月 17 日(金)

2）調査結果

① 学びと地域活動の現状

【活動内容】

・公民館における主な活動分野についてみると、「スポーツ・レクリエーション（卓球、武道、ダンス、体操等)」が 52.8%と最も高く、次いで「趣味・娯楽（囲碁、手芸・工作、カラオケ等)」が 50.0%、「健康（病気予防、食生活、ウォーキング、ヨガ等)」が 47.2%となっています。

【利用目的】

・公民館の主な利用目的についてみると、「交流・仲間づくりのため」が 86.1%と最も高く、次いで「健康維持・増進のため」が 47.2%、「地域・社会への貢献のため」が 41.7%となっています。

【活動形態】

・生涯学習の活動形態についてみると、「住民同士の集まり」が 94.4%と最も高く、次いで「講座」が 19.4%となっています。

【活動における課題】

・活動を行う上での課題についてみると、「会員の高齢化」が 66.7%と最も高く、次いで「リーダーや役員のなり手がいない」が 47.2%、「新規会員が入会しない」が 41.7%となっています。

【活動の進め方】

・今後の活動の進め方についてみると、「現在の活動を続けて、さらに水準を向上させたい」が 36.1%と最も高く、次いで「会員を増やしたい」と「区・自治会の活動成果を、地域や家庭で役立てたい」がともに 30.6%となっています。

【地域や他者との交流】

・地域の他団体や個人との交流の有無についてみると、「特にない、わからない」が 52.8%と最も高く、次いで「イベント等を一緒に行うなどの交流がある」が 30.6%、「イベント（試合、発表会、展覧会）等のお知らせをするなどの交流がある」が 19.4%となっています。

【行政に望むこと】

・活動を続ける上で行政に望むことについてみると、「活動のための情報提供や相談体制を充実してほしい」が 36.1%と最も高く、次いで「区・自治会のリーダーや指導者が学べる機会をつくってほしい」が 22.2%、「会員募集の支援や、活動についての PR をしてほしい」と「さらなる学びの機会について情報提供」が 19.4%となっています。

② 京田辺市における生涯学習に関する取組について

【満足度・重要度】

・京田辺市内の生涯学習の取組について、現在の「満足度」と、生涯学習施策としてどの程度重視するかという「重要度」を１点～５点で評価していただいた結果、満足度の平均は 2.80、最大値は 3.18（「生涯学習に関する講座や活動の情報提供」）、最小値は 2.59（「学びや活動を地域づくりに活かす機会促進」）、重要度の平均は 3.43、最大値は 3.56（「地域で活躍する人、活動を支える人づくり」）、最小値は 3.18（「学びを活かす機会づくり」）となっています。

（4）市民向けワークショップ

1）調査概要

調査対象	
実施場所	
実施日時	令和８年（2026 年）９月 26 日(土)

2）調査結果

○ｘｘｘ
ｘｘｘ
ｘｘｘ。

○ｘｘｘ
ｘｘｘ
ｘｘｘ。

（5）こども向けワークショップ

1）調査概要

調査対象	
実施場所	
実施日時	令和８年（2026 年）９月 26 日(土)

2）調査結果

○ｘｘｘ
ｘｘｘ
ｘｘ。

○ｘｘｘ
ｘｘｘ
ｘｘ。

３．第３次計画前期５年間の取組状況と課題

第３次京田辺市生涯学習推進基本計画の開始から５年間における取組の状況について整理を行うとともに、統計データやアンケート調査の結果等を踏まえ、市民が生涯にわたって学び、学びを通じて人とつながり、その成果を地域や社会に活かすといった生涯学習社会の実現に向けた課題を整理しました。

（１）生涯学習機会の拡充に向けた取組

●現状

・中央市民大学などで行う講座をはじめ、水彩画教室や菊づくり教室、料理、資産運用などの各種講座、スポーツ教室、子育て支援、人権、国際交流などの幅広い分野で、市民ニーズに応じた学習機会を提供してきました。また、こどもから高齢者まで、障がいの有無等にかかわらず、学ぶことのできる機会の確保に取り組んできました。

・令和５年度より、「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現を目指し、スマートフォンの利用や消費者トラブル等をテーマとした講座を実施するなど、デジタル化の進展に対応した取組を進めてきました。今後も市民がデジタル技術を安全かつ適切に利用するための学習機会は生涯学習においても重要です。

・広報誌『生涯学習だより』の発行や『広報「ほっと京田辺」』 、市公式のホームページや SNS、出前講座等を通じた情報発信を積極的に進めてきました。

■課題

・市民の学習ニーズは、趣味や健康・スポーツをはじめ、仕事に必要な知識・技能や AI 等の新たな分野まで多様化しています。今後も市民の関心や社会の変化を捉えながら、ライフステージや学習ニーズに応じた多様な学習機会を充実していく必要があります。一方で、仕事や子育て等による時間的な制約、学習にかかる費用、希望する時間帯との不一致、身近な学習場所の不足などが、学習への参加を妨げる要因となっています。そのため、開催日時や場所、実施方法等を工夫し、市民一人ひとりの生活状況に応じて、誰もが参加しやすく、学び続けることのできる環境を整えていく必要があります。

・AI を使いこなすための学習については、これまでに学習した経験のある市民に比べ、今後学びたいと考える市民の割合が高く、デジタル技術の進展に対応した新たな学習ニーズがあります。今後は、スマートフォンやインターネットの安全な利用に関する学習に加え、AI 等の新たな技術についても、市民がその特徴を理解し、安全かつ適切に活用するための学習機会を検討していく必要があります。一方で、オンライン講習や Web 動画、インターネットによる情報検索等の利用状況には年代による差がみられるため、今後はデジタル技術を活用した新たな学習方法を取り入れながらも、対面での学習や操作支援等も組み合わせ、市民の年齢やデジタル技術への習熟度にかかわらず学ぶことのできる環境を整えることが重要です。

・学習に関する情報の入手方法は年代等によって異なることから、広報紙、ホームページ、SNS 等の様々な媒体の特性を生かしながら、市民が自分に合った学習機会を見つけ、参加につなげることのできる情報発信を進めていく必要があります。

（2）地域人材の育成・活用

●現状

・地域リーダー研修会やスポーツリーダー・ボランティアの育成、防災に関する人材育成、市民活動団体への支援、生涯学習人材バンクや生涯学習推進協力員の活動などを通じて、市民が学習活動や地域活動の担い手として活躍するための取組を進めてきました。

・青少年の市民活動への参加を促進するため、20 歳を祝う式典に併せて、タウンミーティングや、参加者同士が市民活動の情報交換を行うことのできる「ええまちつくろうカフェ」などの実施を通じて、市民が地域に関わるきっかけづくりにも取り組んでいます。

■課題

・地域で活躍する人や活動を支える人づくりは、市民から重要な取組として期待されている一方で、現状に対する評価は十分に高くなく、さらなる取組の充実が求められています。これまでの研修や人材育成、人材登録等の取組を継続するとともに、育成・登録した人材が実際の地域活動や市民活動の場で活躍できるよう、活動に関する情報提供や、人材と活動の場をつなぐ仕組みを充実していく必要があります。

・生涯学習人材バンクや人と活動の場を結ぶコーディネーター等の支援体制についても、制度の周知・登録にとどまらず、市民同士の教え合いや学び合い、地域活動への参加などにつながるよう、地域人材が継続的に活動できる環境づくりを進めていく必要があります。

（3）学びの成果を地域活動へ還元・地域コミュニティの形成

●現状

・市展や作品展、各種スポーツ大会、市民まつり・環境フェスタ等のイベント、図書館ギャラリー、市民活動団体やボランティア活動への支援などを通じて、市民が学習や活動の成果を発表し、他者と共有する機会の確保にも取り組んできました。また、地域学校協働活動や市民主体の地域活動など、学びや経験を地域で生かす取組も進められています。

・地域学校協働活動、地域の居場所づくり、市民活動団体やボランティアへの支援、まちづくりに関する取組などを通じて、市民が学びや経験を地域で生かし、地域とのつながり形成や社会参加につなげる基盤づくりを行ってきました。

■課題

・学習によって身に付けた知識や技能を今後地域や他の人のために生かしたいと考える市民がいる一方で、これまで実際に地域や他の人のために生かしてきた市民は一定数にとどまっています。学びや活動を地域づくりに生かす取組は、市民から重要な取組として期待されており、学びの成果を地域活動につなげていくための仕組みをさらに充実させていくことが求められています。そのため、地域活動などに関する情報提供や、知識・技能を持つ人と活動の場をつなぐ仕組み、活動に参加するきっかけづくりなどを充実し、「学ぶ」ことから「人とつながる」、「地域で生かす」ことへとつなげていくための環境を整えていく必要があります。

・地域学校協働活動や地域の居場所づくり、市民主体のまちづくり活動等との連携を進め、市民が学びや経験を生かしながら、多様な世代や人とのつながりを築くことのできる地域コミュニティの形成につなげていくことが求められます。

（４）学習・交流環境の整備に向けた取組

●現状

・市民の学習・交流環境を整えるため、住民センターや公民館、図書館、コミュニティホール、スポーツ施設、福祉施設等を活用し、地域に身近な学習・交流の場を確保してきました。また、これらの施設等では、講座や貸館等を通じて、市民が集い、学び、交流する身近な拠点として活用されてきました。また、公共施設予約システムの活用など、施設を利用しやすくする環境整備も進めてきました。

・現在、新たな複合型公共施設の整備に向けた検討が進められており、今後の生涯学習・市民交流の拠点のあり方を再構築する機会となっています。

■課題

・学習施設や交流の場の充実に対する市民のニーズは高く、公共施設には、市民参加型のイベントや創作活動、市民同士の教え合い・学び合い、地域活動やボランティア活動につながる機能など、学習と交流を組み合わせた多様な機能が求められています。今後は、講座や貸館等に加え、市民同士の交流や新たな活動につながる場として、既存の公共施設の機能を一層生かしていく必要があります。

・また、学習施設の立地や交通アクセス、利用料金など、施設を利用しやすい環境づくりについても引き続き検討するとともに、新たな複合型公共施設の整備を契機として、既存施設との連携や役割も踏まえながら、これからの生涯学習・市民交流の拠点のあり方を検討していく必要があります。

４．生涯学習社会の実現に向けて重視する視点

これまでの成果と現状の課題を踏まえ、市民が生涯にわたって学び、学びを通じてつながり、その成果を地域や社会に生かすことのできる生涯学習社会の実現に向けて、今後重視すべき取組の視点を整理しました。

■視点１．学習機会・学習環境の充実

市民一人ひとりが、生涯を通じて自らの関心や暮らしの課題に応じて学び続け、その学びを健康や生きがいや仕事、暮らしの充実（ウェルビーイング）につなげることのできる学習機会や学習環境づくりを進めていきます。

趣味や文化・スポーツ、健康づくりなどの学習機会に加え、社会や働き方の変化に対応したリカレント教育やキャリア形成につながる学び、デジタル・AI を安全かつ適切に活用するための情報リテラシーに関する学習機会の充実を図ります。また、仕事や子育て等により時間や場所に制約のある市民も学びに参加できるよう、オンライン学習をはじめ、時間や場所にとらわれない多様な学習方法の充実を図り、誰もが学びやすい環境づくりを目指していきます。

■視点２．学びを通じた交流・つながりの促進

生涯学習を個人の学びにとどめず、学びをきっかけとして人と人、人と地域がつながる環境づくりにつなげていきます。

市民や市民活動団体、大学・教育機関、企業等が持つ知識、人材、場所、活動等の学習資源を共有する「学びのプラットフォーム」の形成を進めます。また、文化芸術活動や市民活動など他分野の取組とも連携し、多様な活動との出会いや参加を促すことで、地域コミュニティの形成につなげます。さらに、学びや研修を通じて育成された人材が地域活動や市民活動の担い手として活躍できるよう、人材と活動の場をつなぐ取組を充実します。

■視点３．学習成果の地域還元

市民が学習を通じて身に付けた知識や技能、経験を地域や他の人のために生かすことのできる仕組みづくりを進め、学びの成果を地域課題の解決や地域づくりにつなげていきます。地域や暮らしの中で生まれる「問い」を「学び」につなげ、その学びを活動や実践へと発展させ、得られた成果や経験が再び地域に還元される「問い、学び、活動、地域への還元という循環」をつくっていきます。

学習成果を発表・実践する機会を充実するとともに、市民活動団体等の活動情報や新規会員募集等の情報発信を支援し、学びを生かしたい人と活動の場との接点を増やしていきます。また、地域学校協働活動等を積極的に活用し、こどもから高齢者まで多様な世代が学びや経験を持ち寄りながら交流し、地域課題の解決や地域づくりに関わる機会の充実を図ります。

■視点４．学習拠点機能の充実

新たな複合型公共施設の整備をきっかけに、従来の講座の開催や図書の閲覧、貸館といった機能に加え、市民が気軽に集い、学び、交流し、新たな活動につながる生涯学習・市民交流の拠点づくりを進めます。

複合型公共施設に位置付けられる「創造・学習機能」を生かし、市民の主体的な学びや活動を支える場としての機能充実を図ります。個人での学習から、市民同士の教え合い・学び合い、グループ活動、地域活動への展開まで、多様な学びや活動を支える環境を整えます。さらに、工作・ものづくり・創作活動や市民参加型のイベント、地域活動やボランティア活動につながる機会など、市民ニーズを踏まえた取組の充実を図ります。

また、複合型公共施設以外の公共施設についても、公民館等の地域に身近な施設を活用し、身近な地域で学び、交流できる場や機会の充実を図ります。あわせて、大学や民間企業、商業施設等との連携を深め、多様な主体との連携を通じて、学習機会や交流の場の充実を図り、学習拠点機能の充実を図ります。

第３章　計画の基本的な考え方

１．基本理念

学びを広げ　未来を拓くまち　京田辺

本市ではこれまで、「いつでも、どこでも、だれでも、なんどでも、たのしく」学ぶことができる学習環境の確保や学習機会の充実、人材育成等に取り組んできました。

今回の中間見直しにあたっては、デジタル・AI 技術の急速な普及、地域課題の多様化といった社会変化を踏まえ、市民一人ひとりがウェルビーイングを高めながら学び続け、その成果を地域に還元していく「学びが循環する生涯学習社会」の実現を目指します。

この理念は、文化振興計画で進められる「文化のプラットフォーム」形成とも連動するものです。引き続き「学びを広げ　未来を拓くまち　京田辺」を基本理念に定め、以下の基本目標のもとで施策を展開します。

２．基本目標

本計画においては、基本理念の実現に向けて４つの基本目標を掲げ、施策を展開します。

基本目標１　学ぶ　～誰もが学び続けられるまち～

年齢や障がいの有無に関わらず、全ての市民が、自らの関心や暮らしの課題に応じて学び続け、その学びを健康や生きがい、仕事、暮らしの充実につなげられるよう、多様なニーズやライフステージ、ライフスタイルに応じた学習機会の充実を図ります。また、趣味や文化・スポーツ、健康づくりなどの学びに加え、社会や働き方の変化に対応した学びやキャリア形成、デジタル・AI等の新たな分野に関する学習機会の充実を図ります。あわせて、時間や場所にとらわれない多様な学習方法や、学びに関する情報発信の充実に取り組み、誰もが自らの関心や暮らしの課題に応じて学ぶことのできる環境づくりを進めます。

基本目標２　つなげる　～学びを通してつながりあえるまち～

生涯学習を個人の学びにとどめず、学びをきっかけとして人と人、人と地域がつながり、身近な地域で多様な活動が広がる環境づくりを進めます。市民や生涯学習活動団体、大学・教育機関、民間企業等が持つ知識や人材、場所、活動などを共有し、人や活動、地域をつなぐ「学びのプラットフォーム」の形成を進めるとともに、文化芸術、福祉、産業など他の分野との連携を図ります。また、地域人材の育成・活用や、生涯学習推進協力員の機能強化等を通じ、市民の学習活動や地域での活動を支援します。

基本目標３　活かす　～学びの成果を活用できるまち～

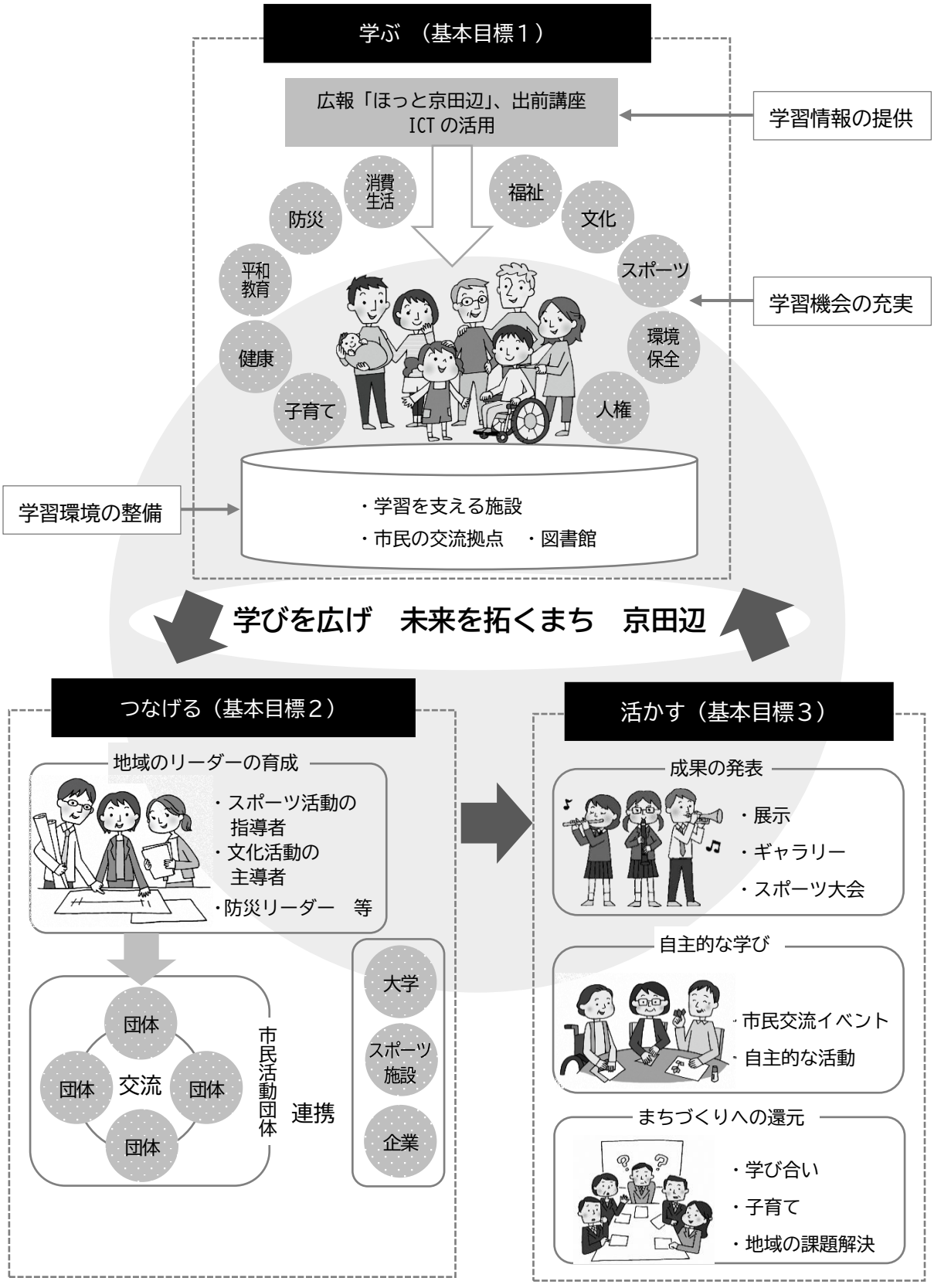
学びにより身に付けた知識や技能、経験等の学習成果を発表・実践できる機会を充実し、市民一人ひとりの学びを地域活動や社会参加へとつなげます。また、学びを活かしたい人と地域や活動の場との接点を広げるとともに、地域学校協働活動等を通じて、多様な世代が学びや経験を持ち寄り、地域の身近な課題解決や地域づくりに関わる取組を支援します。地域や暮らしの中で生まれた「問い」が「学び」につながり、その学びが活動や実践へと発展し、成果が地域へ還元される学びと活動の循環を目指します。

基本目標４　支える　～学びと交流を支える拠点のあるまち～

市民が身近な地域で気軽に集い、学び、交流し、活動することのできる生涯学習・市民交流の拠点づくりと、その機能の充実を進めます。新たに整備が予定される複合型公共施設を「市民が創造する場」として位置付け、図書館等における学習・交流・創造機能の充実を進め、個人での学習から、市民同士の教え合い・学び合い、グループ活動、地域活動まで、多様な学びや活動を支える拠点づくりを進めます。また、公民館等の地域に身近な公共施設についても、地域の学びや交流、つながりを支える場として活用を進めます。

基本理念である「学びを広げ　未来を拓くまち　京田辺」の実現に向けて、下図のように、学びを通じた自己実現や地域のつながりの形成、学習成果の活用に取り組みます。

■本計画のイメージ図（※現行計画から抜粋）



３．計画の目標値

４つの基本目標における数値目標を設定し、基本目標の実現に向けた施策展開の各事業を進めることにより、令和 13 年度（2031 年度）までの目標達成を目指します。

基本目標１　学ぶ ～誰もが学び続けられるまち～

数値目標	基準値 （令和３年度）	現状値 （令和８年度）	目標値 （令和 13 年度）
これまで生涯学習活動を行ったことがある人の割合	76.1%	84.1%	85.0%

注１　生涯学習に関するアンケート（個人用）調査において「これまでにどのような生涯学習活動を行いましたか」という問に対し、「行ったことがない」「わからない」及び無回答とした人を除いた割合

基本目標２　つなげる ～学びを通してつながりあえるまち～

数値目標	基準値 （令和３年度）	現状値 （令和８年度）	目標値 （令和 13 年度）
地域や社会で活動に参加したいと思う人の割合	57.9%	60.8%	68.0%

注２　生涯学習に関するアンケート（個人用）調査において「地域や社会でどのような活動に参加してみたいか」という問に対し、「参加したいとは思わない」「その他」「わからない」及び無回答とした人を除いた割合

基本目標３　活かす ～学びの成果を活用できるまち～

数値目標	基準値 （令和３年度）	現状値 （令和８年度）	目標値 （令和 13 年度）
学習活動を通じて身につけた知識や技能について､地域や他の人のために生かしてきた人の割合	34.9%	38.4%	43.0%

注３　生涯学習に関するアンケート（個人用）調査において「学習活動を通じて身につけた知識や技能について、地域や他の人のために生かしてきたか」という問に対し、「生かしてきた」と「どちらかといえば生かしてきた」を合わせた割合

基本目標４　支える　～学びと交流を支える拠点のあるまち～

数値目標	基準値 （令和３年度）	現状値 （令和８年度）	目標値 （令和 13 年度）
市内の施設（自宅、個人宅等以外）で学習した人の割合	－	52.8%	○○.○%

注４　生涯学習に関するアンケート（個人用）調査において「どのような場所で学習をしてきましたか」という問に対して、市内の施設（自宅、個人宅等以外）を利用した人の割合

４．施策体系

基本理念

学びを広げ　未来を拓くまち　京田辺

■基本目標１：学ぶ　～誰もが学び続けられるまち～

（基本方針１）多様なニーズに合わせた学習機会づくり
（基本方針２）生涯学習の情報提供

■基本目標２：つなげる　～学びを通してつながりあえるまち～

（基本方針１）生涯学習の人材発掘と育成
（基本方針２）学びを通したつながりづくり
（基本方針３）多様な主体との連携

■基本目標３：活かす　～学びの成果を活用できるまち～

（基本方針１）学びの成果を活かせる機会づくり
（基本方針２）市民活動団体の主体的な学びの促進
（基本方針３）市民活動のまちづくりへの還元

■基本目標４：支える　～学びと交流を支える拠点のあるまち～

（基本方針１）学びと交流を支える拠点・居場所づくり（場所確保）
※複合型公共施設、公民館・住民センター、図書館、民間施設（商業施設）、スポーツ施設など
（基本方針２）多様な学びや活動を支える拠点機能の充実（プラットフォームを支える機能）
※図書館等における創造・学習機能、活動・発表・創作できる環境など